

医療保育専門士の資格は
7年3月に創設。保育士の
資格に加え、保育士として
常勤では医療機関で1年以上

資格者は160人

入院児の保育充実 じわり
医療知識持つ「専門士」創設10年

入院児の保育充実 じわり

医療知識持つ「専門士」創設10年

入院の子供をケアするため、医療知識を持つ保育士が増えている。幼い子供の食事介助のほか、治療をしない時間遊び相手やおむつの交換やトイレの補助、昼寝や夜に寝る際のサポートまで担当役割は広い。病状に合わせて保育内容を柔軟に変更することで、通常の保育士では難しい子供の入院生活を支えている。学会が資格を創設してから10年。資格の認知度の向上が課題だ。

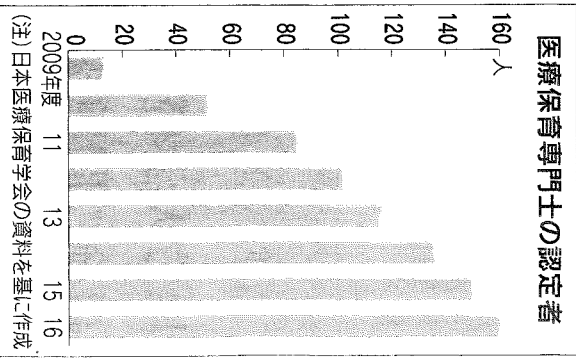
「遊びつかい」。5月上旬、東京都北の区小児科病棟の一室に、医療保育専門士の北村さやかさん(30)の明るい声が響き渡った。乳幼児用の遊び道具を手にした北村さんの姿が、見えた途端、1歳の女児は顔面の笑みをみせた。女児は同センターに入院するのは初めてで、期間は3日間。女児が北村さんかから受け取ったフロッグを形のあった穴に一つづつ入れると、正面に座った北村さんは「よくできたね」とほめ、教分で退室した。北村さんは「長時間遊ぶとまだ疲れてしまっただけで少しでも遊ぶことで『病院が怖い』というマイナスをなくせてリフレッシュして治療をられる」と話す。資格者は160人



認知度向上が課題

入院する子供の遊び相手になつてストレスを軽減させる

国際病院(東京・中央)と併せていることなどが、研究のほか、実際の事例になく、治療以外の時間の子供もケアしようという動きが広がり、90年代ごろから保育士を配置する病院が増え始めたという。横田教授は「入院の子供の遊び相手だけでなく、長期入院で院内学級に通う60人が誕生した。病気で入院する子供に対する保育の必要性は以前から求められていた。同学会の副理事長で、帝京平成大学の横田雅史教授(病児教育学)によると、初めての事例は1950年代の聖路加算条件として「常勤の保育士1人以上の配置」を盛り込んだという。一方国の補助金はなく、2002年に診療報酬の加算条件として「常勤の保育士1人以上の配置」を盛り込んだもの、人件費を削減するなどの役割を果たしてきた」と説明する。



「病気の治療をしている子供に対する保育は、通常有している。中村さんは『この子には何かが必要か、どう関わるべきか』ということは、保育士の中でも強める。同学会の理事長を務める中村崇江さん(51)は強調する。中村さんが主任保育士を務める自治医科大学附属病院(栃木県下野市)に併設すると、ちぎ子ども医療センター」は小児外科だけでなく「小児心臓血管外科」など、子どもの心の診療科など、子どもの心の診療科など、治療が充実しており、同センターでは医療保育専門士の資格者が新人保育士や後輩の指導を担当する仕組みになっている。センターのほかの保育士の中には資格を取得しようにする人もいるという。「もともと症状が重くない患者は体さる場合、楽器を使いながら歌うなどして保育したり、患者が毎週入れ替わるため、病室も、もともとの性格も違つ子供と短期間で使った遊びを取り入れたりするなどしている。同センターには保育士が8人おり、中村さんを含め、両方が不可欠」と話す。

国	資格名	認定開始時期
英国	ホスピタル・プレイ・スペシヤリスト	1960年代
米国	チャイルド・ライフ・スペシヤリスト	1980年代
日本	医療保育専門士	2007年

海外では地位確立

日本の医療現場における保育士取得者が30人ほどいる。一方、欧米などでは小児医療においで、子供の心を守る専門「スペシヤリスト(HPS)」が政府公認の資格として認定されている。米国では、1980年代ごろから「チャイルド・ライフ・スペシヤリスト(CLS)」の導入が進んでいる。CLSSの資格取得には学校、病院などの実習を経て、試験に合格する必要がある。ある。日本国内でCLSSやHPSの資格保有者が働く病院は20カ所、CLSSは病院の小児医療チームの一員として重要な役割に位置づけられており、多くの病院に配置医療保育専門士が広がっており、米国だけでなく4千人、医療機関における保育士の役割が程度いとみられ、日本にも資格高まること期待されている。